




**Conditional Cash Transfers (CCT)は女性の  
エンパワーメントに貢献するのか？  
『ボルサファミリア』の事例から**

**ガルシア ドス サントス 優美  
ミナス ジェライス連邦大学社会学科**

**yumigds@uol.com.br**

## はじめに

- 今年一月BFP導入10周年。
- メキシコの *Oportunidades*、チリの *Chile Solidario* と並んで国際的な貧困撲滅政策のモデルとなる。
- 1988年新憲法—市民憲法
- 90年代: 新しい社会施策の導入と福祉法
  - Programa Saude Familia, Bolsa Escola, Programa de Renda Minima, Lei Organica de Assistencia Social
- 2003年に貧困撲滅政策の一環として制定される（PT、ルーラの公約）。
  
- 条件付現金給付とは
  - 一人当りの所得140リアルまでの世帯
  - 18歳未満の子供や若者を扶養している家族（あるいは妊婦）
  - 保健（定期健診、予防接種）、就学義務

- 
- 人的資本の形成を目的とし、貧困の世代間再生産を防ぐことが最優先に設計。
  - 90%以上の受給者（responsável legal）が女性。
    - 74%が黒人（pretos e pardos）。白人25%、インディオ1%。
  - 一方ブラジルでは80年代から女性の権利確保や社会進出が著しい。また、低所得の女性は労働に携わることが常であった。
  - しかしBFPは男女格差撲滅や女性の地位向上を特に考慮していない。

## 質問

- BFPは女性たちの生活にどのような変化をもたらしたのか。特に、彼女たちのエンパワーメントー経済社会的自立ーに貢献するのか？

- 仮定

BFPは女性を再生産的領域に留まらせ、性的役割分担を助長するのでエンパワーメントにはならない。

- 私のこれまでの研究は都市に在住する女性を対象とする。


## BFのしくみと現状

- BFP受給者は自治体を通してブラジル社会開発および飢餓撲滅省（以下MDS）によって登録される（Cadastro Único）。
- 2012年10月、約1,376万戸の家庭が平均137,09レアルを受給。全体で1.886.184.830レアル（MDSによる）。
- 地域別受給率
  - 東北地方44%、南東30%、南10,5%、北9,5%、中央西6%。
- 就学率の向上に関しては女子には見られるが男子には見られない（地域差あり）。
- 子供の保健条件の改善、保健所の増加。
- 家族福祉プログラム(PAIF)への参加への施し。

## 福祉の中での家族主義

- ブラジル国内外、伝統的に福祉の受給者は女性（Santos 2011, Esping-Andersen 2008）。
- 福祉のターゲットは主に子供。女性は国と家族との間を仲介（同Esping-Andersenなど）。
  - → 家族主義
  - ラテンアメリカの貧困撲滅政策の主要構想。貧困の再生産の回避が第一の目的。
  - ブラジル90年代半ば、家族の社会的役割を発見（貧困者の社会同化（inclusao social）への人的な方法）。
  - 家族は社会的弱者となることを回避する装置。
  - そのための女性の母親的役割、ケアをする性として強固。

- MDSもBFPの受給者（responsável legal）に女性を勧める（家族のニーズを考慮しながら出費を行う）。全体の92,1%（MDS, 2007）。
- 他の社会福祉や貧困撲滅プログラム（保健、住宅、社会福祉）でも主に女性が受益者。フェミニズムの影響もあり（Santos, 2003）。
- 女性もBFPの恩恵を受ける。皆無だった収入が少ないながらも手に入り、パートナーの男性に依存せず家計を運営することが可能。おかげで自己に対する価値感が向上し、夫婦間の不平等が低下（AGENDE）。

- 
- **しかし、受給責任者は専業主婦であることが理想とされる（就学、保健条件を満たし、他の福祉プログラムの義務をもこなす）。**
    - **労働市場に入れば最低賃金は678リアル（最高受給額の4倍以上）。**
      - **保育所や放課後の子供の預け場所の不足**
      - **高齢者の介護の問題**



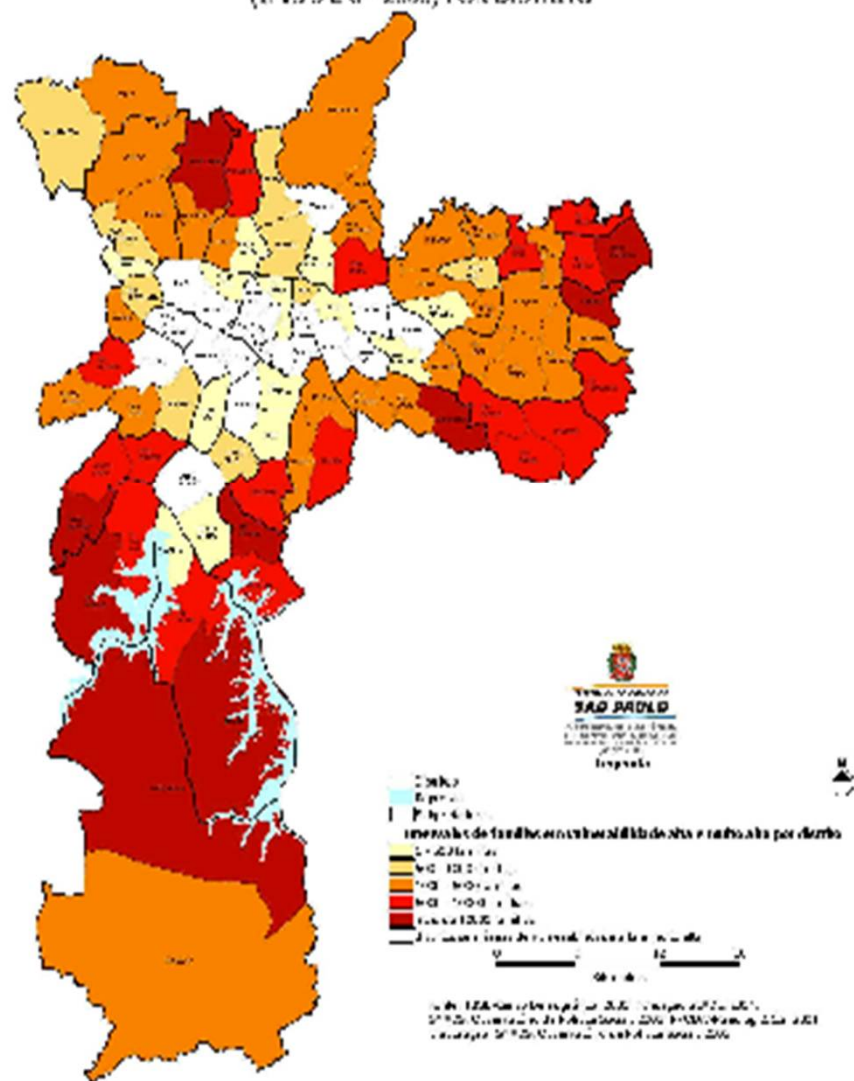
## ブラジルの女性の現状

- 労働市場への参加
  - 女性の就業率は30－40代で85%以上
- 家族の変化
  - 男性の失業率に伴う女性家長の増加（二人親および一人親家庭）全世帯の38%
  - BFP筆頭者の多くが女性家長
- 女性施策の導入
  - 女性省、女性委員会の設置
  - DV法

## フィールドワークから

- **サンパウロ市東部地区ベッドタウン**  
(Itaquera区、Cidade Tiradentes区)を2010年4月～2011年7月までに調査（ポストドクター研究）。福祉プログラム参加女性、男性、ソーシャルワーカー30人以上へのインタビュー。

**MUNICÍPIO DE SÃO PAULO**  
**DISTRIBUIÇÃO DAS FAMÍLIAS RESIDENTES EM VULNERABILIDADE ALTA E MUITO ALTA**  
**(IPVS 5 E 6 - 2000) POR DISTRITO**



## ● エンパワーメント効果

- 家庭で必要な物、特に子供の服と靴を購入することが可能となる（全体）。
- DV被害(Silvia)。
- 病弱の子を持つシングルマザー（子供4人）(Clara)。
- 定職を持たないシングルマザー全般（博士研究から）。
- 全体的にBFを受けていることに関する引け目は感じられない（日本やフランスとの比較）。どちらかと言えば受給していないことがマイナスのイメージにつながる。国から存在を認められる？



- **エンパワーメントへの妨害**

- 給付の条件を満たすために生活を再編成（就学、保健、ワークショップや社会教育ミーティングへの参加）。
- 労働への妨げ
  - 働きたいが夫がBFを受け続けるように命令、働くことを禁じる（Valeria）。
  - BFをもらうことを条件に、夫に他の活動を認められる（Vanessa）。
- 良い母親であることへのプレッシャー。
- 前向きな姿勢を見せることへのプレッシャー。

## 結論

- BFや新しい社会施策は貧困者を市民として認識する重要な公的政策。
- ジェンダーの視点からのBF
  - 母親の立場から、エンパワーメント効果はあがる。消費が可能。夫に頼らない。
  - DV被害女性、特定シングルマザー（多産、病児持ちなど）への支援効果。
  - しかし一個人としては自立不可能。労働市場に入れば最低賃金はBFの4倍以上（現在678レアル）。
  - 女性＝母親＝モラルエフェクト
  - 性的役割分担の強固。男性は「透明人間」。
  - 典型的な、公的アクションとフェミニズムの視点からの要求のずれ。
- 女性が働く環境を調べ、かつ男性の参加を奨励する社会施策の導入が必要。